

## 登熟を高める「根づくり」のため、根を育む「土づくり」を確実に行いましょう。

令和元年産のうるち米1等比率は87.4%と、2年連続で90%を下回りました。気象変動の激しい年が続いていますが、基本的な栽培技術をひとつひとつ確実に実施し、高品質で良食味な「アルプス米」に仕上げていきましょう。



今年の重点ポイントはこの2つ！

### 1 水稻栽培重点技術対策

#### 根が育つための「土づくり」

- ケイ酸分を含む土づくり資材の継続的な施用
- 有機物の施用で保肥力・保水力を高めて、根張りを良くする
- 深耕して根が伸びるための耕土をより深く確保

「土づくり」は「米づくり」の始めの一歩

#### 登熟を高めるための「根づくり」

- 田植後1か月までの中干し開始で、根を深くまで伸ばす環境をつくる
- 中干し後の間断かん水で根を広く張らせる
- 幼穂形成期以降は飽水管理で根に力を与える

今後の生育を見ながら、適切な栽培管理をお知らせします

### 2 「土づくり」で稲が生育する土台をしっかりと作りましょう。

#### (1) 土づくり資材の施用で強い稲づくり

- ・例年に比べて降雪量が非常に少なく、今年の米づくりでも気象による影響が心配されます。
- ・土づくり資材を確実に施用している圃場では、高い1等比率となっています(図1)。
- ・特にケイ酸は籾やワラとして持ち出す量が多いので、毎年しっかり補給することが必要です。
- ・**土づくり資材は春施用も可能です。必ず施用**して、根が丈夫に育つ環境を整え、気象変動に強い稲体に育てましょう。

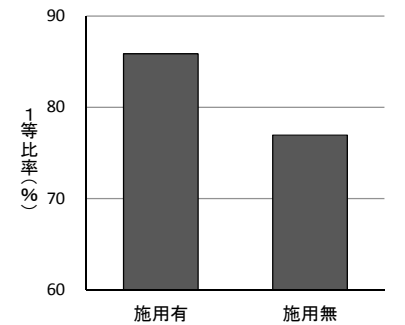


図1 土づくり資材施用の有無と1等比率の関係 (R元産生産記録簿より)

#### 【土づくり資材のケイ酸成分と施用量の目安】

資材名	ケイ酸保証成分	施用量(/10a)
粒状ケイカル	30%	200kg
元気	24%	100kg
シリカロマン	25%	100kg
シンキョーライトP	(66%)	100kg

※土づくり資材とあわせて「苦土重焼燐 30」を20kg/10a 施用しましょう。



【土づくり資材施用による効果】

#### (2) 有機物で地力を高める

- ・堆肥等の有機物を施用することで、土壌の保水性や通気性を良くし、肥効を持続させる効果があります。
- ・積極的に堆肥を施用し、根が元気に育つ環境を整えましょう。
- ・堆肥は製造方法や腐熟程度により成分や肥効が異なるので、施用前に確認しましょう。

#### 【堆肥施用量の目安(10aあたり)】

種類	春施用*
牛ふん堆肥	1～2 t
豚ふん堆肥	0.5～1 t
発酵鶏ふん	75～100 kg
モミ殻堆肥	1～2 t

※堆肥を春施用する場合は、基肥窒素量で1～2kg/10a 減肥してください。

稲わらも貴重な有機物です。しっかりすき込んで、土づくりに活かしましょう。



### (3) 深耕しで根域を拡大

#### ○耕土層拡大の効果

根を深く伸ばすことで収穫まで根の活力が維持され、稲体が気象変動の影響を受けにくくなります。そのためには、深耕しにより耕土を確保して、根域を拡大しましょう。

#### ○深耕しの方法

トラクタの速度を落とし、ロータリの回転数を遅くして、耕土層15cm以上確保し、根が伸びる環境を整えましょう。

また、プラウやスタブルカルチ等を利用し、「現状プラス3cm」をめざしましょう。



### 3 耕起・代かきはていねいに

田面に高低差があると、

- ①田植機の植付精度が低下する、②除草剤の効果が劣る、③水管理がスムーズに行えない、などの問題が生じます。

耕起・代かきはていねいに行い、圃場の均平に努めましょう。



#### 【作業のポイント】

##### ■耕起

- ・過湿状態ではトラクタが沈み耕深が不均一になるため、圃場が乾いた状態で耕起する。
- ・大きな高低差がある場合は、耕起作業の前に直しておく。
- ・トラクタの作業速度を落とし、耕土層15cm以上となっているか必ず確認する。

##### ■荒くり・代かき

- ・代かきから田植えまでの期間が長くなると、雑草の生育が進み除草剤が効きにくくなるため、日数が長くないよう、計画的に行う。
- ・練りすぎると土壌の通気性が低下し、苗の活着や根張りが悪くなるので、練りすぎない。
- ・水を少なめにして行い、稲株や雑草をしっかりと埋没させる。
- ・代かき後の濁り水を排水に流さない。

※トラクタ等農業機械での作業後、公道上を水田の土で汚したら、責任を持って片付けましょう。

## 春の農作業安全運動実施(3/1~5/31)

### 「見直そう！農業機械作業の安全対策」

春の農繁期は農作業事故が発生しやすい季節です。機械等の使用前に点検・整備を必ず行い、また、機械の正しい使用方法を再確認する等の農業機械作業の安全対策に努める。

- ①農場内の危険箇所を事前に把握し、目印を設置するなど改善に努める。
- ②余裕をもった作業計画を立て、複数人での作業を心がける。
- ③各作業に応じた服装、保護具を着用する。

「ヒヤリ」「ハッ」とした経験を、農作業事故の未然防止に役立てましょう



## お知らせ

◎令和2年度も「電子メールによる営農情報の提供」を行います。

- ・スマートフォンやパソコン等で簡単に登録でき、ご希望の情報を選択できます。
- ・すでに登録されている方は、手続きなしで引き継がれます。詳細は「広報アルプス3月号9ページ」をご覧ください。

登録はこちらから！

 <http://ja-alps.com>

